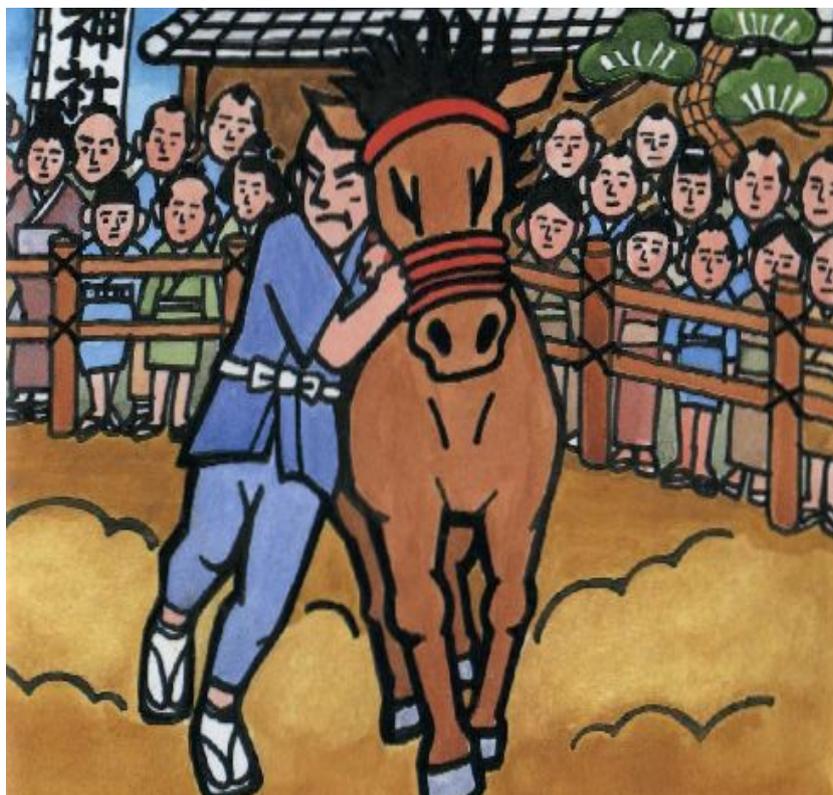


おまんまつと祭りまつ

(東浦町)

東浦ひがしうらの各神社かくじんじやの祭礼さいれいには、おまんまつと祭りまつと呼よばれて、駆け馬かを奉納ほうのうします。これは、境内けいだいに設もうけられた円形えんけいの柵さくの中なかで馬うまを走はしらせ、白装束しろしょうぞくに法被姿はっぴすがたの若い衆わか しゅうが、かわるがわるその馬うまのほほ綱づなにつかまって回まわるもので、見物人けんぶつにんをわかせる勇壮ゆうそうな祭礼行事さいれいぎょうじとなっています。

江戸時代えどじだいに出た「尾張名所図会おわりめいしよずえ」という本ほんには、この「おまんまつと」の起おこりについて次つぎのよように書かかれています。



永禄三年えいろく ねん（一五六〇）、桶狭間おけはざまの戦たたかいで、織田おだ信長のぶながが今川義元いまがわよしもとの首くびを討うち取り、清洲きよすの城しろにががいせんして来きました。

「清洲のお殿様が戦に勝ってお帰りになるぞ。」

「それはめでたいことだ。さっそくお祝いに参上しよう。」

知らせを聞いて、お城近くの村々から、大喜びした村人たちが、馬を走らせて城に集まり、そろって殿様のお帰りを迎えました。

これがきつかけとなって、その後、村のお祭りに、飾り物を着けた馬がたくさん集まって、行列を作ったり、あるいは、神社の参道を駆け上がったたり、境内に柵を設けてその中で駆け回

ったりする、おまん和祭りが始まったといひます。

